



ハリーン通信

Vol. 34



〔目次〕

- P1 表紙・環境体験事業 「見て！見て！この虫なあに？」写真
- P2 環境体験事業 「見て！見て！この虫なあに？」 北播磨県民局
環境学習の取り組み ヘチマプロジェクト 多可町立松井小学校
- P3 不法投棄を許さない地域づくり
不法投棄防止地区の活動紹介 小野市粟生町
不法投棄防止活動推進員・協力事業所研修会 北播磨県民局
- P4 県、市町の取り組み
加東市フードドライブ 加東市
西脇市フードドライブ 西脇市
北播磨県民局フードドライブ 北播磨県民局
- P5 環境イベント かとう夏のCOOL CHOICE ウィーク 加東市
- P6 企業の取り組み 三木バイオマスファクトリー完成 大栄環境株式会社
- P7 県の取り組み ピリカ自治体版見える化ページ「クリーンアップひょうご」
- P8 市町の取り組み 令和5年度「SDGs 未来都市」に三木市が選定
団体の取り組み 「環境保全功労者」知事表彰 あびき湿原保存会（加西市）



環境体験事業

主催:北播磨県民局

講師:NPO 法人三木自然愛好研究会

協力:兵庫県地球温暖化防止活動推進員 北播磨地域連絡会



見て！見て！この虫なあに？

8月22日(火)、県立三木山森林公園で、小学生を対象とした昆虫採集が実施されました。この事業は子ども達が身近な環境に関心を持ち、自然を愛する心を育ててもらおうと、夏休みの期間を利用して行われました。当日は、虫取り網や虫かごを持った10組の親子連れなど35人が朝早くから参加しました。



スタッフによる昆虫クイズを楽しみ、昆虫採集の注意点を聞いたあと、参加の皆さんは、芝生広場で、スタッフから昆虫の居場所を聞いたりしながら、草むらや林に入って、思い思いに昆虫を見つけて夢中になって捕獲していました。



捕獲した昆虫は22種類となり、分類して虫かごに入れ、NPO 法人三木自然愛好研究会のスタッフから、虫かごの一つずつについて、詳しい説明を聞きました。

公園のルールにより、捕まえた虫たちを自然に帰すため、虫たちに別れを告げたあと、兵庫県地球温暖化防止活動推進員から、地球の現状と地球環境の生き物の現状など、地球温暖化防止対策について話を聞きました。

自然の中で、親子が虫取りを楽しみながら環境について考えるなど、夏休みのよい思い出になったのではないのでしょうか。



環境学習の取り組み

ヘチマプロジェクト 多可町立松井小学校

松井小学校では、今年5月に4年生が種を蒔いたヘチマが大きくなっています。鉢に種を蒔き、芽を出したら学校の花壇に植え替えて栽培しています。秋には、収穫したヘチマをたわしに仕上げます。

このプロジェクトは、ヘチマを栽培してヘチマたわしを作ることで、海の豊かさを守ろうとするSDGsの取り組みです。

今、多くの家庭で食器洗いに使っているスポンジは、プラスチック製であり、細くなったマイクロプラスチックゴミが出ていて、河川から海へと流れて行っています。海では、魚などの生き物の体内に取り込まれます。

ヘチマプロジェクトに参加することで、プラスチックゴミが環境に及ぼす影響を知り、環境問題を身近なこととして学びます。





不法投棄防止地区の活動紹介 ～小野市粟生町～

小野市粟生町は、小野市の西部に位置し、西は青野ヶ原台地に面し、東は加古川に接する面積 360 万平方メートルの、小野市でも有数の水田を有する町です。若年層が減少し、高齢者の割合が増えて、少子高齢化が進みつつあります。

粟生町自治会としては、このような過疎化の問題を乗り越え、魅力のある街づくりを目指しておられます。

しかし、近年、山林内や山裾に不法投棄が多く見られるようになりました。

取材した現場は、山へ続く草道で、隣接する池は、今までの不法投棄で池の面積が小さくなってきたということです。不法投棄禁止の看板を設置しても改善が認められないことから、防止のためのネット等の設置を決めました。当日は2名の役員が、10mに渡ってネットの取り付けや看板を設置しました。自治会長は「今後とも、地区を挙げて不法投棄防止活動に努力していきたい」と語っていました。



不法投棄防止活動推進員・協力事業所研修会 北播磨県民局

産業廃棄物等の不法投棄の防止を図るためには、地域住民と事業所、行政が一体となった取り組みが必要です。北播磨県民局では、不法投棄の未然防止や早期発見等の「不法投棄を許さない地域づくり」をスローガンに平成 25 年度から不法投棄防止活動に取り組んでいます。

7月12日（水）、各地区の不法投棄防止活動推進員、不法投棄防止協力事業所を対象に、不法投棄の現状や未然防止のための対策、発生時の対応等について学ぶ研修会を開催し、166人が参加され、不法投棄防止対策の普及啓発を図りました。



講師

兵庫県環境部環境整備課監視班
班長 平 孝洋 様

兵庫県西脇警察署生活安全課
課長 古谷 晴彦 様





フードドライブの実施

家庭で余っている食品を無駄にせず、それを必要とする福祉団体等にフードバンク等を通じて寄附する「フードドライブ」は、食品ロス削減を図る一つの手段となり、県民一人一人が取り組むことができる活動となっています。

北播磨地域では、令和5年度に入って、各地でフードドライブが実施されました。

加東市フードドライブ

加東市、加東市社会福祉協議会、マックスバリュ西日本(株)の3者協働により、6月後半の延べ4日間、マックスバリュ社店、東条店で実施されました。49名からの寄附がありました。



西脇市フードドライブ

西脇市では、7月10日から14日までの5日間、市内の公共施設10カ所で実施されました。440キログラムの寄附がありました。



北播磨県民局フードドライブ

北播磨県民局では、昨年10月に引き続いて、7月18日・19日に、社総合庁舎で実施されました。86.4キログラムの寄附がありました。



今後のフードドライブの予定



兵庫県では、10月23日～29日の1週間を「ひょうご SDGs WEEK」としています。その一環で、北播磨県民局では10月25日と26日に社総合庁舎で実施する予定です。

これにあわせて、9月から11月にかけて北播磨管内の各市町と連携したフードドライブを行う予定です。このほか、ひょうごフードドライブ推進ネットワークに参加しているコープこうべの各店舗でも随時実施されています。

詳しくは北播磨県民局ホームページでご確認ください。

北播磨 フードドライブ



寄附食品等は、フードバンク等を通じて生活困窮者や福祉施設等に配布されます。ご家庭の在庫食品の賞味期限を確認いただき、消費する予定が無い食品がありましたら、こういった機会にご提供をお願いします。



かとう夏のCOOL CHOICE ウィーク



クールチョイスとは、地球温暖化対策のための「製品の買替え」「サービスの利用」「ライフスタイルの選択」等、日常生活の中でできる「賢い選択」をしていこうという取り組みのことで、その啓発イベントが、7月24日・25日と27日～30日までの6日間、加東市滝野複合施設（滝野図書館）で開催されました。

パネル展示では、多数の協力企業・団体による展示があり、気候変動がもたらす影響と、日常生活でできる対策について紹介がありました。



環境について学べる体験型のワークショップも実施されました。

取材した最終日には、ビニール袋や段ボール、ティッシュロールを使ったストーンを作り、的に向けて投げて滑らせる「ポンポンカーリング」が人気でした。



受付横には、「ダジックアース」と呼ばれる、直径2mの球形スクリーンに、プロジェクターで地球の気温変化の様子や台風の発生、雲の動き等の様々な情報を表示する、デジタル地球儀が展示されました。

VRシアターは、ゴーグルをつけて画面を覗くことで、気候変動によって近い将来起こりうる異変を、仮想現実（VR）の世界で体験できました。

また、会場に設置されたメッセージボードには、来場者が思い思いにエコメッセージを貼り付け、クールチョイスグッズを受け取っていました。



三木バイオマスファクトリー完成 大栄環境株式会社（三木市）

5月三木市吉川町に、県内でも最大規模の産業廃棄物焼却施設が竣工しました。
詳しいことを会社に尋ねてみました。なお、この施設は今秋の稼働を目指しています。

Q：何をやる施設なのですか。

A：廃木材や食品残渣などのバイオマス資源と様々な廃棄物を混焼するサーマルリサイクル施設です。



Q：バイオマス資源とは何ですか？

A：生物資源（bio）の量（mass）を表す概念で、エネルギーや物質に再生が可能な、動植物に由来する有機物（石油や石炭などの化石資源は除かれます。）のことで、具体的には、農林水産物、稲わら、もみから、食品廃棄物、木くずなどを指します。

植物は二酸化炭素を吸収して成長するため、燃やしても大気中の二酸化炭素の量は増加しないとみなすことができ、これをカーボンニュートラルと言います。化石燃料の代わりにバイオマスを燃焼して発電を行うと、二酸化炭素の排出削減にもつながるのが特徴です。

Q：バイオマス発電と言われる施設なのですか？

A：三木バイオマスファクトリーは、廃木材などの木質系バイオマスだけで発電するのではなく、弊社が保有する廃棄物と混焼して発電するものです。



Q：こういう施設にされたのはなぜですか？

A：資源化可能物及び有機性廃棄物を徹底回収する埋立負荷低減システムを整備し、100年企業の基盤を作ることで、事業の持続性を高め環境創造企業として進化することと、低炭素社会づくりに貢献することを目指すためにバイオマス施設を計画しました。



Q：どれくらい発電できるのですか？

A：どの焼却施設にも、発電機は付いていますが、弊社の施設は発電にも重きを置いており、タービン発電機の定格出力は11,700kWで、一般家庭でいうと28,000軒分の使用量に相当する量を発電することができます。



Q：循環型社会の形成に向けた意気込みをお聞かせください。

A：当社グループは、今後も、資源循環システムの高度化に資する取り組みを推進し、持続可能な循環型社会の形成に貢献してまいります。



ピリカ自治体版見える化ページ「クリーンアップひょうご」

～海洋プラスチックゼロエミッションを目指して～



兵庫県では、近年世界規模で課題となっている「海洋ごみ」問題について、海にごみ流れ出ないようにすること、ポイ捨てを減らすことが重要であると考え、解決に向けた第一歩として「ごみの散乱状況の見える化」を進めるため、**ピリカ 自治体版 見える化ページ「クリーンアップひょうご」**を開設しております。

ピリカとは

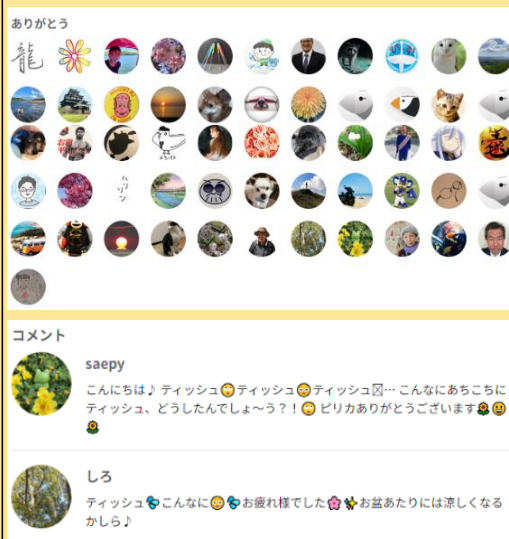
無料

スマホアプリ「ピリカ」を使って、ごみ拾いの記録を投稿すると、“ありがとう”やコメントが届き、他のユーザーと励まし合いながらごみ拾いを楽しめます♪

<ごみ拾いの記録の投稿(例)>

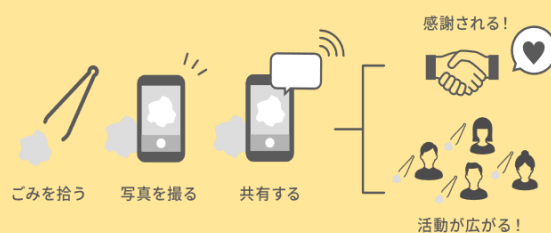


<“ありがとう”やコメント(例)>



使い方(概要)

ごみを拾って写真を撮るだけ。誰でもみんなで気軽にごみ拾い活動に参加できます！



ごみ拾いをする際などに、兵庫県版の見える化ページ「クリーンアップひょうご」を活用して活動を発信してみませんか？ 様々な方がそれを見ることで、ごみの散乱状況についての「気づき」を通じて、ごみ問題を「自分事」としてとらえ、ごみ減量やリサイクルなどについて、行動変容の輪が広がっていくはずです。

さあ、ここからはじめましょう！

➡QRコードの読み取り



または 「兵庫県 ピリカ」と検索。

令和5年度「SDGs 未来都市」に三木市が選定



国連が掲げるSDGs達成に取り組む自治体を国が後押しする「SDGs 未来都市」に、一昨年の西脇市、昨年の加西市、多可町に続き、三木市が選ばれました。

SDGs 未来都市とは、SDGs の理念に沿った基本的・総合的取組を推進しようとする都市の中から、特に社会・環境・経済の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャル（将来的発展性）が高い都市として選定されるものです。

「100年後も誇りを持って暮らせるまち三木」を目指し、官民協働によるまちづくりを進め、それぞれの力を連携し、自立的好循環を生み出していけるようなまちの実現をめざす計画が評価されました。

団体の取り組み

あびき湿原保存会、環境保全功労者知事表彰



加西市のあびき湿原保存会が環境保全功労者の知事表彰を受賞し、6月6日に兵庫県公館で表彰式が行われました。

あびき湿原保存会は、長年管理放置され、消失の危機に瀕していたあびき湿原（加西市網引町）の保全活動を継続して行い、湿原の再生に大きく貢献されました。

現在も湿原維持のため、侵入木伐採、草刈り、湿原を取り囲む里山山林の整備に精力的に取り組んでおられます。

また、小学生を対象とした環境体験事業の一環として、湿原の植生や生物の観察会を開催するとともに、一般県民が広く湿原を見学できるよう散策道を整備し、観察会を開催するなど、地域の環境保全の意識向上に寄与されています。



保存会のメンバーは、地元住民のほか県内各地から参加する有志により成り立っており、学識経験者の指導のもと、会員個々が植物や昆虫、鳥類などの専門的知識を身に付け、生物多様性など湿原の環境変化を科学的にモニタリングしておられます。

保存会は、兵庫県の森林ボランティア活動をリードする団体の一つであり、森林環境教育について、経験とノウハウを多く有しており、兵庫県が進める県民総参加の森づくりの推進に大きく貢献されています。



ハリーン通信はインターネットでもご覧になれます

平成17年の創刊号から、最新の34号までのハリーン通信をインターネットでもご覧になれます。「ハリーン通信」←検索、又はQRコードから読み取ってください。

兵庫県北播磨県民局県民交流室環境課
電話 0795-42-5111（内線341）
FAX 0795-42-7535

